

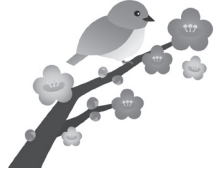


**餘慶寺だより**  
 編集・発行 上寺山餘慶寺  
 〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187  
 納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187  
 惠亮院 TEL/FAX 086-942-3788  
 本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823  
 吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789  
 定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490  
 明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069  
 圓乘院 TEL 086-942-2356  
 ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

薬師護摩祈禱 護摩木三百円 木札授与三千円／五千円

【院】 ひとくち法話

新しい住職がお寺に入ることを「入院」、辞職することを「退院」といいますと「えっ」という声が聞こえてきそうです。現代では病院関係の用語になってしまった「入院」「退院」ですが、「院」は本来はお寺を指す言葉でありました。今でも新任職になることを入山や入寺と言うほかに入院とも言っております。お寺はもともと山にありまして〇〇山と称し、世間にあつては世俗を離れて垣で囲まれていることから〇〇院というように山も院も本寺の称号であることが納得できるでしょう。



ところで昔、四天王寺に悲田院や施楽院が開かれたのですが、これは病院の元祖だと言われています。また、平安時代には勧学院という学校もありました。このように院とつくものは寺院から発祥しているといっても過言ではないでしょう。天皇が退位後、出家して住む御所を敬つて院と呼称するようになり、天皇自身も呼ぶようになり、順に皇族から大名にこの院号が与えられるようになりました。現在の戒名、法名の上につく院号はこの院号の諱名に由来しています。院は俗世を離れた尊い人をも表す言葉です。院とつく場所業御を営む者は欲を離れ、世のため人のため尽くすことが肝要です。病院や学院で働く先生にも寺院に在る者同様頑張つて欲しいと思います。

日常の仏教用語集

■「億劫」  
 劫とは仏教において非常に長い時間を表す。億劫とは、その劫の一億倍であるので気の遠くなる時間となる。そこから、「やる気なくなる」という意味で現在使用されている。

■「高座」  
 現在では寄席の舞台を指すが、もともとは講堂で説法をする僧侶が座る席のこと。一段高く作られていたためこのように呼ばれた。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日 (於 薬師堂)  
 毎月8日 午前10時～  
 護摩供養をしています。ご祈禱のお申し込みは随時納経所へお願いします。

観音縁日 (於 本堂)  
 毎月18日 午前8時～  
 みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお参りください。



期間限定の「さくらカフェ」はお菓子とお飲み物のセットで四百円です。

### 春の餘慶寺お彼岸法要

三月二十一日（水・祝日）の十時より春のお彼岸法要が餘慶寺本堂において行われます。

お彼岸は真西に太陽が沈むことから、極楽浄土ごくらくじょうどに思いをはせる日、ご先祖様の供養をする日として、古来より大切にされてきました。

併せてこの日は、現代に生きる私たちにとって、神仏への感謝、天地への感謝、ご先祖様への感謝、両親への感謝、家族、先生、友人、ペット、…すべての生きとし生けるものへの感謝の気持ち思い起こし、いかされる有り難さを実感させる、絆を確かめ合う日でもあります。

報恩謝徳ほうおんしゃとく（恩に報い徳に感謝する）の日として、大切な春のお彼岸に日にお墓参り・納骨堂参りと併せて餘慶寺へもお誘い合わせの上お参りください。

なお、お彼岸法要でご供養をご希望される方は別紙「お彼岸法要のご案内」をご覧ください、上寺山各院または餘慶寺会館納経所へ三月十三日（火）までにお申込みください。



### 桜まつりのご案内

四月一日（日）より八日（日）にかけて「桜まつり」を餘慶寺境内において開催いたします。

期間中、薬師堂では秘仏薬師如来やくしにょらい（国指定重要文化財）、聖観世音菩薩しょうくわんぜおんぼさつ（国指定重要文化財）、十一面観世音菩薩じゅういちめんかんぜおんぼさつ（県指定重要文化財）などの特別公開や護摩祈祷ごまきとう、本堂では花御堂はなみどうの釈迦誕生仏しゃかたんじょうぶつへ甘茶あまちゃを漉そそいでいただけるようご用意しています。また、境内では例年好評をいただいております寺庭婦人じていによる「さくらカフェ」（各四百円）を行います。

特に四月八日（日）はお釈迦さまのお誕生日です。餘慶寺では毎年、この日の八時より降誕会ごうたんえの法要をし、甘茶の無料おせつたいをしております。

春の上寺山へ、是非ともお参りください。



### 第十八回上寺山詣りライトアップの報告

昨年大晦日から一月二日にかけて餘慶寺と豊原北島神社で「両詣り」と名付けて様々な行事が行われました。今年のお正月も暖かくなり、また天候にも恵まれたこともあり、例年以上にお詣りに来られる方が多く盛況であったように感じました。大晦日の日は、スタンプラリーやカウントダウン風船あげ、大根煮と甘酒のお接待や除夜の鐘つきなどそれぞれに楽しまれたことでしょう。

元日、二日は薬師堂における護摩祈祷を受けられる方が大勢おられました。祈祷を受けられた方ひとりひとりが大変お陰を受けられたことと思います。八角堂における楊灌頂も好評で、昨年のお守りカードを納め、今年のものをお願いする方が年々増えていくように感じます。回廊におきましては新年の授与品を求めて大勢の方が立ち止まり、おみくじや各種縁起物を求められています。

最後になりますが、両詣りを開催するにあたりご尽力いただきました皆さま全ての方々に心よりお礼申し上げます。今後ともご協力いただけますようどうぞよろしくお願いいたします。



春を見つげに上寺へお参りしましょう。

### 特別寄進のおすすめ

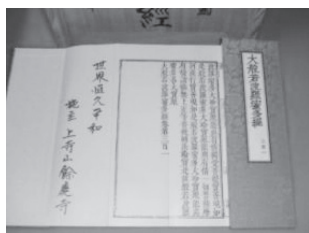
### 大般若経

餘慶寺本堂には、「大般若経」六百巻が納められております。そしてその一巻ずつにお施主を募り、一口一万円のご寄進をお受けしております。

ご先祖様や、今は亡き大切な方へのご供養のため、ご自身の心願成就や家内安全のため等にご志納いただきますと、経巻の裏表紙に、餘慶寺住職がお施主名とお願いのご芳志をお寄せください。

なお、寄せられました浄財は、諸堂修理などの境内整備のために活用させていただきます。

ご協力をよろしくお願いいたします。



毎月第二日曜日 午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

### 餘慶寺境内紹介

#### 『石畳』

本堂前から薬師堂に向けて、また八角堂、三重塔、日吉社、愛宕社に向けて、境内に石畳が敷かれたのは、平成二十四年のことでもあります。

以前は、雨が降ればぬかるんで、歩むのにいささか難儀しておりました。それが石畳のお陰で、天候に関係なく、諸堂をおまわりしやすくなりました。

ある日の夕刻、本堂より境内を眺めていると、「遊慶の庭」に夕陽が差し込み、薬師堂へ向かう石畳をあたたかく照らしていました。その風景は、みほとけ様が「救いの道は、ここにあり」と、私たちを導かれているようでもありました。

実際に歩を進めてみて下さい。薬師堂へ近づくにしたがつて、見えない糸でたぐりよせられているような、神仏のご加護を全身に感じることができる、そんな石畳であります。



よけいじ寺子屋だより  
会場 餘慶寺会館(十四時〜)



### 今後の予定

- ☆『お葬式のはなし』 三月十七日(土) 小林周伸師 講師 本乗院住職
- ☆『展覧会のつくり方 企画の発想』 四月二十日(土) 講師 瀬戸内市立美術館学芸員 関洋平 先生
- ☆『晋山式を終えて思うこと』 四月三十日(月・祝) 講師 明王院住職 岡本昌幸師
- ☆『座禅体験』 五月十二日(土) 講師 定光院副住職 山内僧侶
- ☆『釈尊の生涯③ 十大弟子について』 五月十九日(土) 講師 定光院副住職 西野祐聖師
- ☆『餘慶寺の絵画について—涅槃図を中心に—』 六月十日(日) 講師 笠岡市立竹喬美術館学芸員 松島千穂 先生

※となたでも聴講可能です。(無料)  
お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

### 編集後記

今号の積善を作成し始めた時は年の初めでしたが、気付けば春がそこまで迫ってきました。餘慶寺も春彼岸会や花まつりなどの行事やお花見などこれからさらに賑やかになる季節となります。皆様お誘い合わせの上、お参りくださいね。